立教大學新聞
旬刊
發行日 五日・十五日・廿五日
本紙定價 一部金五錢 一年金壹圓五拾錢
廣告料 五號活字十五字詰一行 金五拾錢 指定場所二割增
發行兼編輯印刷人 玉井俊夫
發行所 東京市外池袋立教大學構內 立教大學新聞學會 電話小石川四〇四番 振替東京七〇八五二番

◇テキストの內容は今更言ふ迄もなく、內容の正確と充實さは
◇獨立した讀本としても、立派な價値があり又裝幀の優雅と定
◇價の至廉は驚く程であります。書店にて實物を御覽下さい。

東京中央放送局 佛語 獨語 英語 講座テキスト

各地書店にて發賣

（菊判上製紙各八〇頁 二色刷ケント紙優雅裝）定價各二十錢

休暇中の御勉強はラヂオで

JOAK TEXT

ラヂオ聽取者の御便利を計り東京中央放送局の講座テキストを、各地書店に於て取扱致します、是に依り從來の手數と不便は完全に除かれ、一つには文化促進の一端ともなれば幸甚の到りです、尚是を手始とし今後發行のテキストも全部書店で販賣致します。今後放送局ではテキストの窓口賣を致しません。

今直ぐ最寄の書店へ　申込まれよ賣切の恐れあり

ラヂオ夏期語學講座

一、期間 七月二十一日より八月三十一日まで 六週間、日曜祭日は休講

一、放送時刻
午前七時 佛語初等 テキスト全壹冊
午前七時四十分 獨語初等 テキスト全壹冊
午前八時三十分 英語中等 テキスト全貳冊

一、講師
佛語科 陸軍大學校教授 丸山順太郎
獨語科 外國語學校教授 田代光雄
英語科 高等師範教授 岡倉由三郎
福原麟太郎、村岡傳、寺西武夫、清水繁、武井亮吉、以上

發行所 東京中央放送局

發賣元 株式會社 北隆館
東京市京橋元數寄屋町 振替口座東京七五〇番

アシユレー著 英國經濟史講話

經濟學士小林良正氏譯（四六判總布裝函入）定價貳圓（送料十八錢）

好評再版

本書は二三大學、專門學校等の敎科書として用ゐられつゝある William James Ashley の名著 The Economic Organisation of England: An outline History を譯せるものにして原著者は序して曰く『英國經濟史の問題に始めて近付かんとする人々に對して、取扱はるべき範圍の大部分及び彼等が考究せざるべからざる問題の大部分に關する一般的觀念を與ふる所の一の講和を提供することいふことが多少の貢獻ともなり得べきを余は敢へて信ずるのである』と。もつて本書の眞價を窺ふに足らん。今や好評再版成るに當つて一般學生研究者の座右に奬む。

章華社發行
東京市外中目黑八五二 振替東京六七五二二

上野へお遊びの節は
永藤のパンとケーク
御用命上候
（上野公園前）

洋畫材料は
美蘭社へ
池ノ端仲町通り
振替東京四七四五三

一九二六・二七

日本寫眞年鑑

驚歎と激賞……こは本年鑑第二年版に抄げられた世界各國の讚辭である。

掲載の作品……は米獨の大雜誌に紹介され日東帝國の氣萬丈の氣を吐いた。

第二年版への「カメラクラフト」の評言——日本に於けるわが同業者が又しても目ざましい活躍振りを見せてくれたことに對して祝はなければならない。日本寫眞年鑑の編輯者たちは今われらの前にある日本寫眞年鑑を發行することによつて彼等の祖國に新らしい榮わある月桂冠をもたらしたのである。印畫の撰び方、編輯の上に示された苦心と勤勉の跡は立派なものである。裝幀も印刷用紙も實に立派なもので目のさめるやうな日本趣味の凝つた意匠で出來上つてゐる。……

第三年版

卷頭論文
一年を顧みて……編著
本邦寫眞藝術の傾向……福原信三
寫眞學術界一瞥……鎌田彌壽治
寫眞師界を顧みて……江崎清
この偶語を夢想たらしむな……米谷紅浪
名古屋寫壇の回顧……森一兵
現實の感想……淵上白陽
研展の作家……秋山轍輔

寫眞
網目銅版（二度刷、一度刷、クリームアート）は印刷技術異常の進步を遂げ、グラヴユア版はエスパルト紙を用ひ精巧を極む

記事
內容の豐富と精確とを期す——卷頭論文の外に寫眞界重要記事、圖鑑、地圖および名簿を收む

定價參圓 郵稅二十錢
東京 大阪 朝日新聞社
振替 東京一七三〇 大阪五五〇

第三年版は……前年版に優る素晴らしい內容を盛り格段の進境を示す。
日本の最高……寫眞藝術の粹を一望の下に收むるはただ本年鑑あるのみ。

室伏高信著 結婚論（新刊）

（四六判上製三百頁、定價壹圓六拾錢送拾八錢）

この書物は純粹に私の自己表現である。そのうちの善きものも惡しきものもそのまゝに私自身である。その一字々々が新に書かれたものであるやうに、それはまた最近における自己反省の記錄である。自分にとつてはこの書物が一貫して自己を語るところの最初の書物である。それは自分の書いたものだといふよりは自分の反省のために書かれたものである。そこには肉慾の奴隷としての自分の姿が赤裸々にあらはれてゐる。私自身は尚ほかくのごとき種類の人間である。けれどもそれは私にとつては意味深いものである。私は神の啓示を最初にこゝに見たのである。そして遂にわれ／＼によつて願はれてゐるものが何んであるかを探り、一つの自然の認識によつてより深き自然の扉に手の置かれてあることを私は示したのである。名は結婚論といふ。まことに結婚論であるが、その結婚といふことは私はシラアが飢えと愛といふたところの高き意味においてゞある。私はそれによつて人生における、並びに宇宙における結婚の意味を示し、それによつて人生の理解、並びに宇宙の理解に入ることをもとめたのである。私が書物を書きあげたのは十餘日の間であるが、この書物に志したのはプラトオンの「饗宴」を讀んだ時からである。「饗宴」がプラトオンにとつて最も美しい書物である如くにこの書物が私にとつての最も美しい書物である事を私は期してゐたのである。（著者）

宮川曼魚著 江戸賣笑記

（四六判三八〇頁 浮世繪名畫十五葉入 函入最上製）定價二圓四十錢 送料二十二錢

こんな面白い上品な本がどこにある？名は江戸賣笑記と云ふ。されど本書は賣笑の意義並びに日本賣笑の沿革より說き起し、次で德川三百年間の賣笑—私娼、公娼制度を深く趣味的に研究したるもの著者は深川の名家宮川に生れ、若くより江戸文學の研究に身を捧げたる人。近時賣笑制度の論紛々たるの時、本書の如き多くの文獻考證を基礎として成れる好著はなからん。先づ賣笑の如何を知り、賣笑を論ずる者は本書を讀め！

發行所 批評社
（東京市芝區鳥森町一 振替東京四五三四六番）

鐵道省編纂 日本アルプス案內

◇菊半截判洋裝函入美本 二百頁アート紙刷寫眞四十餘頁 總紙數◇ 2版 定價壹圓八拾錢 送料六錢

山に親しむ人々の最も信頼に値する登山案內書にして南、北、中央アルプスの地理行程難易景趣、廊館山小屋露營地を說く事詳細なり

鐵道省編纂
日本北アルプス登山案內 定價壹圓 送料六錢
十和田 田澤 男鹿半島案內 再版 定價八拾錢 送料六錢
鐵道旅行案內 十二版 定價參圓貳拾錢 送料十二錢

齋藤隆三氏著 趣味の旅 古社寺をたづねて

◇池田牛歩畫伯裝幀袖珍判洋裝函入紙數四百三十頁◇ 3版 定價壹圓六十錢 送料六錢

東は中尊寺、西は太宰府に至る間の古社大寺を最近訪ね廻つた見聞記にして同時に著者の美術論、叢論を說く旅の懷に手頃の好著是非一本を薦む

松川二郎氏著 ◇趣味の旅 民謠をたづねて 袖珍判洋裝函入五百頁 四版 定價壹圓六十錢 送料六錢

松川二郎氏著 ◇趣味の旅 名物をたづねて 袖珍判洋裝函入五百頁 再版 定價壹圓六拾錢 送料六錢

藤澤衛彥氏著 ◇趣味の旅 傳說をたづねて 袖珍判洋裝函入四七〇頁 新刊 定價壹圓六拾錢 送料六錢

旅行書目贈呈
東京小石川戸崎町四六 博文館（振替東京二四〇番）

譯註 英文世界名著全集

一冊五十錢 全四十卷

僅かの英語の素養があれば辭書なしで樂々と讀める

英語研究の藝術化

敬愛する全國の女學生諸孃！
中學生諸君！
高等各學生諸君！
一般好學の士よ！

諸君の久しき渴望を滿すべく茲に英文世界名著全集は出現しました。古今東西の名篇傑作が懇切明快なる譯註によつて辭書なしで樂々と讀むことが出來ます。本全集を讀めばあのむづかしい英語に知らず知らず熟達すると同時に、世界文學の大綱に精通することが出來ます。執筆者は斯界の權威と新進氣銳の篤學者を網羅し、內容豐富、裝幀瀟洒、印刷鮮明、製本堅牢、而も價は一冊僅かに五十錢です。本全集こそ正に書期的著述であり、英語學者に對する一大福音であります、皆さん一時も早くこの全集の會員となつてあの難解な英語を征服し、時に興味津々たる世界の名著を味はつて下さい

顧問
早稻田大學教授 日高只一先生
帝國大學助教授 澤村寅二郎先生
平田禿木先生
早大名譽教授 增田藤之助先生

1	ラム	シエクスピヤ物語	峰尾一高教授
2	スコツト	湖上の美人 其他	木原城北中教諭
3	ツルゲエネフ	散文詩	岡本文學士
4	ギツシング	蜘蛛の巢の家	清水立命大學教授
5	ハーン	短篇集	光井橫濱高商教授
6	ステイーブンスン	短篇集	白石早高教授
7	サウデー	ネルソン傳	上井早大教授
8	デフオ	ロビンソン・クルーソー	內ケ崎文學士
9	シルレル	ウイリアム・テル	大槻憲二
10	コナンドイル	短篇集	山崎早大教授
11	ホーマー	イリアツド	加藤文學士
12	ワイルド	童話集	小山人吉中教頭
13	チエホフ	短篇集	柴府立七中教諭
14	スヰフト	ガリバース・トラベルス	百瀨府立五中教諭
15	アナトールフランス	バルタザール 其他	小暮文學士
16	デイツケンズ	クリスマス・カロル 其他	堀慶大教授
17	メエテルリンク	青い鳥	飯田早大教授
18	セルバンテス	ドン・キホーテ	池田文學士
19	コンラツド	短篇集	乙骨浦高教授
20	チヨーサー	カンタベリ物語	高見東高教授
21	キングスリー	希臘英雄物語	長澤學習院教授
22	オルコツト	小婦人	平田禿木
23	アービング	スケツチブツク	佐久間早大講師
24	アラビヤン・ナイト		中村早大教授
25	バンヤン	天路歷程	布上文學士
26	テニスン	イノツク・アーデン 其他	三浦學習院教授
27	ダンテ	神曲	大藪文學士
28	タゴール	短篇集	三木東洋大學教授
29	聖書	物語	矢島文學士
30	グリム・アンダーセン	童話集	酒井朝彥
31	トルストイ	復活 其他	中西文學士
32	バリー	ピーター・パン	石井（マスター・オブ・アーツ）
33	英米短篇選		大橋外語教授
34	ゲーテ	若きウエルテルの悲しみ	增子文學士
35	モリエール	人間嫌ひ 其他	小暮文學士
36	スペンサー	仙女王物語	酒井東京高校講師
37	ストウ	アンクル・トムス・ケビン	津田女高師教授
38	イブセン	人形の家	林文學士
39	ラスキン	黃金河の王	宍倉大阪高校教授
40	ハアデイ	短篇集	川合名古屋高商教授

特典
七月五日までの御申込者に限り一月拂の方へ英語一千字カードを贈呈し、全拂の方へは英語一千字カード及ブツクエンドを贈呈します。

內容見本 御申込次第進呈

體裁 四六判上等紙。印刷總新活字。一冊二百數十頁。本製美裝。挿繪コロタイプ挿入。

略規 ▲申込金五十錢▲一冊五十錢▲一時拂十八圓（申込金不要）郵稅一冊市內六錢、市外八錢▲昭和二年七月第一卷刊行、以後每月二卷づゝ發行

締切 七月十五日

英文世界名著全集刊行所
東京九段 振替東京四三三 電話九段（33）三二五

空前絕後の大廉價版

學校騷動は、これを如何には握すべきか・

一

京大事件を端緒に、早大、二高、明大、水戶高校、松山高校等々最近いはゆる「學校騷動」なるものが連續的に起つて來た。かくして今や我國學生大衆は新なる段階へ進出した。

二

今日の發展段階においては、學生大衆と當局とは深刻なる對立をなして居る。

この對立關係を明確に究明する事によつて我々はいはゆる「學生騷動」の本質を正確には握し得るであらう。

三

「學校」は、支配階級によつて建設せられて居る。從つてそれはブルヂヨアジーの權力擁護機關でなければならぬ。

從つてそれは何を過程するか？即ち私立たると官立たるとを問はずことごとく資本主義的帝國主義支配下にしゆん動する。

先に早大における理事會の正體暴露の如き、又今回の二高事件におけるいはゆる「大先輩」の如き總てこの間の祕密を遺憾なく曝露せるものである。もち論早大なり二高なりには各々特殊がある。けれどもかゝる對立のは握にあたつては、それを、「その交互關係の具體的特殊的な發展において全面的に分析することを必要とする。」即ち從來當局の壓迫に對峙してけん然私學のプライドをは持しその自由を獲得し來つた早大が何故にこのプライドを一てきするに至つたか、自由を放棄するに至つたか、否、せざるを得なきに至つたか。何故に二高は傳來の誇いはゆる二高スピリツトを放棄せざるを得なかつたか、問題は簡單である。いはく「學校の資本主義的帝國主義化」これである。

四

校長排斥、自治權獲得を叫んで盟休を決行した二高事件は、當局の卑劣極まる逆宣傳の中に暴露されて居るがこれは文部當局が全國の學校を積極的に專政的奴れい教育に連鎖しつゝある事實に堪へ得ずして、學生大衆が、自然發生的に突發的な反抗を起したものである。先の早大、松山、水戶兩高校問題も亦この事件に外ならない。

二高事件の起るや文部當局は直ちに「赤化運動」であると逆宣傳を飛ばし、「學生が團結の力をもつて學校當局に迫りその主張を貫徹しようとするが如きは學生の本分に背くものだから斷然處分する」等と放言して弱き學生を威嚇した。これ暴力政治、奴れい教育の甚しきものである。かくして學生大衆の盟休の必然性は今や究明せられ得た。

五

二高の學生大衆は最早や盟休の理由が單に校內における校長排斥自治權獲得であつてはならない。學校當局と文部當局の內部的連絡を見きわめる事によつて問題は進展する。

學生大衆の對稱は單なる一校長乃至學校當局ではあり得ない。學生大衆は今こそ妥協的の先輩と分離して學生自身のみで戰はねばならぬ事を知らねばならぬ必然に迫られた。即ち盟休中最後の學生大會で先輩が盟休中止を說いた時、學生大衆はこれに反抗の氣勢を示したではないか。更に登校した日の第一時間目に、校長が「盟休の感想と校長排斥の理由および決議を取消す」旨を書けとて配布した用紙は全學生が白紙のまゝでつき返へしたではないか。

六

かくして今や學生大衆は「學校騷動」をは握する事によつて新なる段階を過程した。必然その任務は新なる條件によつて課せられなければならぬ。

新保險政策の論據

教授　錦織理一郞

この頃の新聞の經濟欄を比較的賑はして居る問題は川崎造船所救濟の如き大問題を除いてはまづ不良生命保險會社の問題に指を屆することが出來る。かくの如く生命保險會社の不正が漸く世間の耳目を聳動するに至つたのは、一面には、生命保險會社が事業界におけるその地位を漸次向上しつゝあることを、物語るものではあるが、同時に又、國家の採つた多年の誤れる保險政策が、今日に至つて漸くその結果を現はし、特に我々の注意を引きつゝありと、見ることが出來るのである。といふのは、今日では多少改正されたやうであるが、以前は一定の書式さへ調へば拒む理由なしとの、單なる法律的見解から、ほとんど何等の制限なく保險會社の設立が許可されたのである。從つて我國の國情に照して過剩な多數の會社（現在四十四會社）が、生じたのである。之等の會社は未だ開拓すべき余地を持つて居た間は、それほどでもなかつたが、余地が少くなるに從つて漸次激烈なる競爭をなすに至つた。その結果營業費の增加を來し、經營難に陷つた會社は、事業資金に飢へたる企業家に、次から次へと轉賣せられたのである。之等の企業家の目標が、保險事業そのものではなくて、保險事業の有するいはゆる取付けられざる積立金に在つたとは、ほとんど說明するまでもない。しかし貪婪なる企業家の欲望に對しては一應の制限がある。即ちその財產を利用する場合には、投資物件の質に付ても量に付ても、豫め定められたいはゆる財產私用方法書に違反することは出來ぬことになつて居る。たゞこの制限に拘束せられては、彼等の飢餓は余りに大きかつたのである。

多數の生命保險會社の存在は、かくの如く自由競爭を激烈ならしめ、ひいては幾多の弊害を生ぜしめたるのみならず、更に他の不都合をもひき起したのである。元來生命保險は、物品として見るときは、如何なる會社の作るところのものも、品質即ちその與へ得る利益は同じであつて、たゞ異るところは、價格（こゝに價格とは、實質保險料即ち保險料表における名目保險料から加入者利益配當を控除したるものをいふ）に過ぎぬといふ特色を持つて居る。從つて低廉なる價格にて保險を供給し得るものは、常に保險界において優越なる地位を確保することが出來る。しかして低廉なる保險を提供し得るものは、結局その資產においても經營においても、最も良好なる狀態に在る大會社たらざるを得ぬ。ところが我國四十四會社の現狀を見るに、資產においても經營においても他のものに比較して勝れる四五の一流會社があつて、これ等のものは最も安價なる保險を全國的に廣く供給して居る。しかも生命保險の如き事業においては大なる失敗を豫想することは不可能であるから、この狀態をほとんど永久に持續することが出來るのである。この事實を反面より解すれば、ひつきやう四五の一流會社を除いた多數の會社は、程度の差こそあれ、同一品質の物品たる保險を、加入者を欺まんして比較的高價に賣付けつゝありと、見ることが出來る。大會社と同じ低廉なる保險を供給することは、自己の財力の許さざるところであるから、結局會社として生存して行くには、何等かの手段に依りて、保險を高價に販賣するは止むを得ないことであるが、たゞ彼等にとりて幸なことは、保險の價格即ち保險料が、色々な關係から、高低を簡單に識別することの能はざる點である。これに依りて比較的容易に欺まんが行はれ彼等の生存の余地が、存在するのである。故に若し保險に關する一般的知識が增進するか、又は高低を一目に弁別すべき標準が與へられるならば、弱き會社は忽ちにして窮地に陷らざるを得ない。從つて現在の四十四會社の大部分は、存在の意義を持たぬ、社會的にはほとんど無用の長物たるのそしりを免れぬ。知らず人におけると同じやうに會社においても生存權ともいふべきものが、主張し得らるゝや否や。

從つて又、これ等の弱小會社の從業者に對しても、同情を表せざるを得ない。ペンシルヴアニアのヒユーブナー教授は一九一五年ニユーヨークにおける生命保險の募集員大會の講演「生命保險の募集員は自己の職業を如何に見るべきか」中において、生命保險の募集員が一つのプロフエツションとして成立するがためには

一、職業は、社會に對して本質的に必要にして、その目的において高尙ならざるべからず。從つて從業者にその職業をひつ世の事業となすに充分なる、愛と熱誠とを鼓吹するものならざるべからざること。

二、職業は科學を包含し、その實行にはその科學に關する專門的知識を必要とすること。

三、これ等專門的知識を應用するに當りて、從業者は、利己的商業的見地を捨て、常に顧客の利益を考慮せざるべからざること。良心的公平無私なる勞務と適當なる助言指導は、職業的行爲の本質であつて、結局最良政策である。

四、個々の從業者は、自己の同業者に對する忠實の精神と、自分達凡ての者が職とする共通の利益に助力する精神とを有し、同業に侮辱を與ふるが如き、非職業的行爲をなすべからざること。

の四つの觀念から考へなければならぬと論じ、この標準に照して、先年の募集は、立派に一つの職業として成立することを述べて、大にこれを激勵して居る。併し先に述べた關係から見て、弱小會社の從業者についても、果してこの事がいへるか否か甚だ疑問であつて、若し彼等にしてこの事實を意識するに至れば、甚だ意氣を喪せざるを得ぬと思ふ。

もちろんかくの如き事實は、生命保險以外の事實においても認めることが出來る。例へば火災保險等にも、大小の會社の間においてその供給する保險の價格には多少の差異があるが、その保險料が、生命保險ほど正確に計算すること能はざることおよび保險料ほど大なる差異が、大小の會社の間に存在しないのである。しかもその契約は一年毎に更改せらるゝのであるから、それほど重要視する必要はない。然るに生命保險においては、その契約期間が數十年にわたるからその優劣の差も到底火災保險等の比ではない。世上生命保險事業の地位が向上したると共にその經營に就て注意するものが漸く多くなつて來たが、この根本問題に就て意識するのは、いまだ極めてまれである。私は國家も國民も、この不合理なる狀態に留意し、速にその對策を講ずべきであると思ふ。あるひは銀行業におけると等しく合併の奬勵を提唱するものがあるかも知れぬ。併し銀行業保險業とは可なりのへだゝりがあるから、假令現在合併の障害をなしつゝある保險業法の規定を改正するも、それ程大なる效果は望まれぬと思ふ。

各運動部の

夏期計畫

炎熱の苦しみも他所にして 貴い技を練る

『若人の血と淚の奮闘』

暑い夏が訪れる。一學期間の勉學の苦しみから漸く解放されたかごの鳥の如く各自あこがれの山海にいふいふ自適する爲に故山に歸つて行く。就中運動部は暑い休暇も眠はず各部その技を練るため各地に合宿して秋のシーズンに備へる。

野球部

六大學リーグにて最下位のめぐまれざる運命にある野球部は八月十五日より秋田市にて猛練習をなし九月に入りて關西に遠征して秋のリーグに備へると、倘豫科軍は來る十五日より開催せらるゝ帝大主催全國專門學校野球大會に出場する筈、その他の學部生は左記の如く各地にコーチに出かけた。市村（鳴戶中學、小濱中學）早速（山形高校）野田（前橋中學、豐岡中學、岡山商業）片田（鳴戶中學、栃木商業）正田（青森商業、栃木中學）鈴木（豐岡中學）

籠球部

都下において優秀なる成績を持つ籠球部は、來るべき上海における極東オリンピツク大會にインターカレツヂ、ピツクアツプチームに本學より野村君を主將とし、東城、佐藤、淸水の四君が出場し、他の部員は、伊豆伊東において合宿し、猛練習をなすと。

馬術部

暑中休暇を利用して來る七月一日から廿八日まで六時半から約一時間半士官學校において敎官八田曹長指導のもとに休暇中在京する約十名、初步から一人前にするために馬術練習をするはずである、なほ金子、早川幹部連は休暇中に東北地方の有名なる牧場から北海道にもおもむき新冠御料牧場を回り馬の研究を八月一ぱいして歸ると。

競技部

商大に大捷して意氣を示した競技部は曾て早稻田、法政の使用した靜岡縣島田町に八月二十五日より九月十日まで合宿して關東選手權大會及びオリンピツク豫選に出場の爲に備へると。

山岳部

本年度山岳部夏期計畫は左記の如く第八班に分けて登山することになつた第一班は中房より槍岳上高地（約五日間）◇第二班烏帽子より笠嶽縱走（約七日間）◇第三班白馬岳へ（約六日間）◇第四班針ノ木越立山方面（約六日間）◇第五班針木、立山、劍岳、白馬方面（約九日間）◇第六班穗高岳縱走（約六日間）◇第七班甲斐駒白峰方面（約七日間）◇第八班八ツ岳縱走（約三日間）

ホ・ピ部

今春六敗一分の成績を得たホツケークラブは今夏秋田縣能代に合宿して八月二十七日より二週間練習をすると、尙ピンポン部は來る七月中旬擧行の關東關西學生對抗戰に本學より內田青木兩選手出場すると。

弓道部

夏期練習は七月中旬より八月末日まで校內道場にて猛練習を行ひ九月一日より十一日まで大日本弓道會理事天根先生直々指導の下に那須溫泉にて合宿練習を行ふと。

角力部

主將松林君の渡米後殘留軍は大垣マネーチヤー引率の下に高村副將以下千葉縣佐倉町高橋方に合宿し八月一日より二十日まで猛練習をなすと。

柔道部

學生軍對滿洲遠征軍において學生軍の大將を出した本校角力部は七十數名の部員を引率して逗子開成中學に來る十五日より向二週間合宿して今秋計畫の各地遠征に備へると。

ブレンタノ「近世資本主義の起源」を通じて見たる 資本主義の概念

經三　小早川　充

一

今日の經濟社會は資本主義によつて支配せられてゐると稱せられる。資本主義とは如何なるものであるかといふことを知らんと欲するも強ち新意義のことではあるまい。ボーレは資本主義と言ふ言葉の中には普通次の樣な觀念が含まれてゐることを指摘した。「即ち玆に云ふ資本主義なるものが形成せられたのは比較的近世のことであつて、之によつて前代未聞の新しい制度が世に齎らされた。從つて現時の資本主義とそれに先き立つ經濟形態とは謂はゞ一つの深い溝によつて隔てられたる全く異れる二個の經濟世界なりと看做さるべきものであると言ふ觀念である。」併しながら、かゝる見界は政略的價値判斷を離れて、事物の根柢を究明する所の捉はれざる洞察の前には到底維持し難いものである。「今日歷史を云々するもので單に表面的に止らず根本的に全然異りたる歷史があると主張するものはあるまい。」從つて次の如く解釋すれば相當程度に肯づかれる根據を有することになる。即ち、資本家的經濟組織なるものはそれ以前の經濟組織と離れて、それ獨自の原因から急に出現したものではなく、前組織の有機的成長の結果として成立したのである。外部に表はれざる內部的變遷によつて兩者は密接に結びついてゐるのであるが故にその連續したる全體から一部分を切り離して觀念することは觀察者の權威物を意味し得るとしても客觀的妥當性を有する科學的概念たり得ぬ。この故に資本主義なる言葉を以つて現今の經濟組織を代表せしめることは科學的には不可能であるとするものと解するが至言であらう。

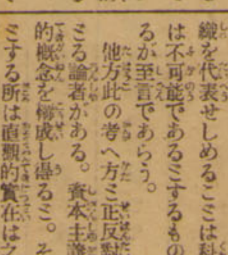
他方此の考へ方と正反對の道をとる論者がある。資本主義の科學的概念を構成し得ること、その根據とする所は直觀的實在は之を廣く見れば無限なる雜多や、只一定の觀察者が此の中から選擇して意識に上し、之を概念化する。如何に觀察者の綿密周到なる注意も歷史と同一物、或は直觀的實在と同一なるものを構成することは不可能のことに屬するであらう。我々が現實について比較的安全さを以て言得ることは、この現實在から、一の觀點に立つて對象を引き出すことが出來ると云ふことである。このことは從つて現實的理論と結びつくのである。かゝる方法によつて得られたる對象は常に多少の主觀性を含むものである。併し全然主觀的のものでなく、科學的觀察たる以上客觀性は自然科學のそれと程度を異にするとしても客觀的妥當性を有してゐなければならぬことは云ふまでもない。此の要求の爲に發生的なる理想型が許されねばならぬ。然るに此の許容は一種の假定である。而してかゝる假定は科學に於ては常に許されてゐる所であつて、假定を有する他の科學が一定の科學的概念の構成を許容されるならば、又今吾々の問題とする經濟史に於ける資本主義の科學的概念の構成も許容さるべきであるといふにある。

併し玆ではその兩說の當否の判斷は暫く措いて問はず、只その兩方の見方があるにも關はらず、共に今日の經濟組織の發生を探究することを無意義とするものではないことだけを强調しておけば足りる。即ち前者は今日の經濟組織を前經濟組織の連續變化と見る點を重要視するが故にその過程の說明が要求せられ、後者に從へば資本主義以前の典型としての經濟組織から典型としての資本主義經濟組織への移り變りは如何にして行はれたかを十分なる說明を以て、歷史の連續性を保護しながら、歷史的因果關係を辿りながら、客觀性を與へなければならぬのである。

かゝるが故に私が何れの說に從ふとしても僞資本主義の發生に關する研究を辿ることを無意義とすることはないと思ふ。この故にブレンターノの「近世資本主義の起源」を研究せんとするのである。（未完）

宗教會議に落合氏もスイスへ

先發の稻垣代表の跡を追ひ



本學神學部教授神學博士落合吉之助氏は來る八月頃スイス・ジエネーブにおいて開催せらるゝ萬國宗教會議に先發の聖公會代表稻垣教授の後を追ひ、日本繼續委員の資格にて去六月廿日午前十一時、橫濱解らんの伏見丸にて開催地に向け出帆せられた。

同會議は三年に一回開催され、萬國教會の教理・聖職・制度を討議し、その目的とする所は、教會の一致點を見出さんためのものであると。

尙同教授は十月末までには歸國せらるゝ豫定である。

滿鐵の招聘で庭球部の遠征

河西教授以下十二名が十九日東京驛發で

本學庭球部は昨年來種々計畫中であつた滿洲遠征は同地在住の先輩諸氏の盡力によつてこの程漸く決定し滿洲鐵道の招へいでいよいよ來る七月十九日午後七時半東京驛發にて遠征の途につくと因にスケージュールおよびメンバー左の如し

◇七月十九日午後七時半東京驛發

七月二十一日午後一時門司出帆

二十三日午後大連着、以後滿鐵側の計畫により大體十日間位ひで滿鐵、東拓、三井、三菱、ハルビン外人クラブ、同邦人クラブと挑戰の七、倘戰況によりては天津クラブとも一戰をなし八月十日前後に歸京の豫定

◇尙ほ部長河西太一郞教授引率にて德永監督以下平澤、中島三、中島弘、香月、森、橋本、薩澤、松尾、北原、淸水以上十二名で歸京後は大阪に合宿し夏期練習後日本選手權大會に出場すると

對部競技にラ部雪辱

昨年よりラ式對バ球部對部競技は初めたが昨年はバ部優勝したが本年は三十五對十五の大差でラグビー部は雪辱した

競技部商大に大勝す

本學對商大第二回陸上競技會は去月拾八日正午より國立商大トラックにて擧行された本學は徹頭徹尾商大を壓迫し四拾六對二拾三にて二拾三點の大差で大勝した。因に百米、低障害、八百米リレーは本學における驚異的レコードであると、一等記錄左の如し。

△百メートル　一一秒四　石井（立）
△砲丸投　一二米〇七　森（立）
△走高飛　一米六五　尾本（商）
△千五百メートル　四分三拾六秒四　大條（立）
△圓盤投　三拾米七〇　森（立）
△四百メートル　五拾五秒　小柳（立）
△走幅飛　六米一五　岡田（立）
△槍投　四五米九二　岡田（立）
△低障害　二拾六秒四　小柳（立）
△棒高跳　三米八〇　大村（立）河木（商）峰高（商）
△五千メートル　一八分四九秒三　富士（商）
△八百米リレー　一分一六秒九　立敎（石井、永峰、小柳、木內）

警笛

十五字詰七十行以內記名のもののみ掲載但し紙上匿名可

立教は何處へ行く？

前學期授業料滯納者は張りだされた。そして强硬な文句が教務課の名前で掲示された。又今學期授業料未納者は掲示場へは六月末までに納付せよといひながら、父兄の所へは十日付で廿日までに納付せよ。納付せざる時は云々……の但書がついて飛んだ。

中々嚴重になつたものである。もちろん、これは最近吾が學內に起きた小さな出來事に過ぎぬ。が、吾々はこれ等を本大學の前記の事實史に限らす――これは都下各專門大學校の等しく行つた所であるが故に――全體から、明大、早大の最近の二出事事をも、又最近の二高のそれをもひつくるめて考へてみる時に、誠に意味深い一つの積極政策をみることが出來るのである。それは、形こそ代れ、二高事件を稱して、學校の赤化運動……と逆宣傳を飛ばすのと同じ筆法なのである。それ故、この全體から吾々はいつも考察する必要がある。

然しこの立教から特に取り出して考へなければならぬものがある。それは宗教だ。

立教はその綱領を自由と愛に頂くものである。然も、それには基督教主義が一貫して流れてゐるのである。かくて、立教は、慈愛に溢れたる隣人愛に統一されなければならない。宗教心が人間の內在性に求められなければならないが故に、自由と愛は外形的な組織を超越する。

然るにも拘はらずだ。現在はこうだ。かつて吾が立教に、こういふ事實があつた。それは、某青年會の幹事が公金を費消した時に、その幹事は自己の誤れるを知り、神にひざまづいた。その人は許されたのである。その人は文部省へは通告されなかつたのである。何といふ相違だ。現在、パニツクの襲來した今日、單なる授業料未納者には何等の顧慮される所もなく、直ちに停學であり、文部省へ行き除名處分に遇はなければならぬのである。

宗教は遂に無力であるのか。

信仰は遂に一介の價値すらないのか。

學校は遂に宗教によつて統一出來るのか（ミツションスクールは何處へ行く？）

弁論部は純一なる學徒の見地（？）より濁流の世界を救ふべく、彼等は出發しようとしてゐる。禁酒同盟は酒より人間を解放する事によつて社會を救濟しようとしてゐる。Y・M・C・A は禍と闇を護るために禮拜してゐる。信仰を說く。彼等も遊說に出發するだらう。

もちろん、これに不賛成を稱へるものではない。然し、より大切な事は、いつれがそれ自身運動してゐる世界に對して――效果的であるかといふ事だ。人間社會は知らぬ中に惡くなつて行く樣だ。きう屆だ。そして、吾々學生にもひし〳〵とそれを感じてゐる。

八方、遊說に出かけぬ諸君。吾立教はミツションであるが故に、先づこぞつて宗教を研究しようではないか。「宗教の批判こそ一切の批判の前提をなすのである」（ヘーゲル法律哲學批判」序編）（一豫生寄）

同大講堂で獅子吼の

關西英語遊說

――ウエルボン氏の招待に 宇治ホタル狩に淸遊

根岸部長並びに九名の部員よりなる關西英語遊說の一行は、去る十九日東京出發し京都において華族會館にてマンデー・クラブの午餐に招待され席上百余の名士外人を前にして根岸教授の例のユーモアを交へたテーブル・スピーチにメートルを擧げた、同三時より同志社講堂にをいてオラトリカル・ミーテングを開催本學生**大獅子吼**して大いに氣を吐いた。堂を埋めた聽衆淚後まで熱心に耳を傾けた、夜同大の英語部のデナーに招待され海老名同大總長の祝辭があつた、翌二十一日日活スタデイオ比叡山を見學し夜はウエルボン氏の招待で宇治のホタル狩りに一夜を淸遊して散會した

豫科庭球部學習院に大勝す

本學豫科對學習院庭球戰は去る二十二、三兩日學習院コートにをいて擧行左の記錄の如く六對三にて大勝す。

時間空間

◎夏期休暇來る。行け、海に、山に

◎しかして眼を天がいに放て。若人の視野は廣し

◎弁論部主催で討論會開かる

◎討論會の目的とする所は、ヤ、コシイ理論闘爭よりは常識論による弁舌の練習にあるんだそうな

◎誰だ！　倒論怪だなんていふ奴は

◎明大に又社會科學研究會の解散あり。お次は學校の解散。そのお次は？

◎懲罰令までだして上海の日貨排斥氣運溢る。田中さんいはく「これだから徵兵はまかりならぬのだや」

◎それだから徵兵せよといふのですよッ

◎齋藤全權、軍縮にジユネーヴくんだりまで行つた事と思てゐたのに、實は日米野球戰の打ち合せに行つたんだつて

◎軍縮の主旨が世界平和にあるなら、野球戰は敵を敗るにある。チヨツ、とんだ間違ひをする所

◎均等を無視して、政府補助金下付を忘れる。時節柄あんまり世話を燒かせない方がためにならう

社告

本學會は例年の如く夏期休暇中左記日付をもつて二回本紙を發行し、休暇中における本學の特況、學生の動勢もれなく報道し、併せて學生相互間の通信を計ります。よつて本紙郵送希望の方は實費金十錢を添へ、至急本學會まで御申込み下さい。

七月二十五日
八月二十五日

尙休暇中事務所を左記地に移轉します。

東京府荏原郡調布村
鵜ノ木六一四
和田劍治方

七月五日

立教大學新聞學會

最古の歷史
キリンビール
KIRIN BEER
最新の設備

新露西亞の研究

革命後の文學
マクシモフ著　秋山炭六譯　價八十錢

本書は勞農ロシヤの大批評家マクシモフの周致明敏な觀察眼を以て現勞農ロシヤの文學の推移を細大洩らさず論述され且新作家とその作品を公平に批判紹介されたものであり眞の勞農ロシヤの實狀を研究せんと欲する士殊に文學に於て正鵠な論據に立せんとする學徒の必讀の良書たるは勿論絕好の參考資料である。敢て繙讀を待つ。原語譯を誇る。

トルストイとマルクス
ルナチヤルスキイ著　金田常三郞譯　八十錢

勞農ロシヤの見た藝術界の巨星トルストイと思想界の巨人マルクスは[illegible]思想家にして藝術家たる現勞農ロシヤの文部大臣ルナチヤルスキイが批判論撰は眞の勞農ロシヤの實狀を識る絕好の資料である。何人も一讀して現ロシヤの眞狀を知れ。

圖書時報進呈

原始社
東京西大久保五〇八
振替東京六三六八
電話四谷三六一五九番

發行日　六月の廿五日

戯曲集
スカートをはいたネロ　他六篇
村山知義氏著

內容
進水式　勇ましき主婦
闇の陣營　踊子になつた書記の妻
仕事行進曲　スカートをはいたネロ
廣場のベンチで　街路越しの殺人事件
孤子の處置　無宿者
兒を制せよ　女優

本書は著者村山知義氏の自選になる會心の作のみを集めた第一戯曲集である。

取材の奇、構想の異、描寫の妙、氏の筆の冴ゆは全く神技に匪幾しといふべく、何人も追隨を容さざる獨壇場にして一作每に行詰まれる本邦劇壇を打開する革命的な傑作品にして、一大センセイシヨウンを捲起してゐる、氏の藝術心理を愛する者はいはずもがな、苟も氏の藝術を是非せんとする者は本書を逸脫して語るを得べからず。

就中「スカートをはいたネロ」は作者の思想的意圖を最も巧みに表現した最近傑作中の傑作として上演公開されたものである。

四六判著者裝幀　定價二圓　送料[illegible]

發行旬日ならずして初版忽ち賣切れ再版本日出來！

猿から貰つた柿の種
北村小松氏著
四六判布製函入　四〇〇頁　淺野孟府氏裝幀
定價壹圓九拾錢　送料書留十八錢

劇壇の人氣を沸騰させ、戯曲界注目の焦點となれる著者北村小松氏の出世作は現代劇文壇の一大收穫たるはいふ迄もなく、こうして讀者の賞讃するところである。本書に納むる八篇は悉くこの精粹を擇ばれしもの、就中「猿から貰つた柿の種」は四月築地小劇場公演に際し上演を禁止されたもの、本書も又危く發賣を禁止されんとした問題の戯曲。見逃す勿れ

六月十五日出來

戀愛三部曲

露文豪アンドレエフ傑作戯曲選集下卷
愈々出版さる！

弊社は我が劇文壇の新人露文學者能澤復六氏の流麗な譯筆によつてアンドレエフ戯曲選集を完成し得たのを無上の欣びとす。萬人必携の書。下卷——作者の寫實方面を代表する心理劇三篇。古來之程深刻赤裸々に戀愛の三角四角關係を主題にして、男女間の性慾の爭闘を描いたものは一つもあるまい。三篇とも近來流行の全集本には勿論、未だ曾つて紹介されたことがなく、殊に「アンフイイサン」「ストリツイン教授」の二篇は難解なために、或は餘りにも露骨な描寫のために、世界の何れの國語にも飜譯されて居ない。本書が飜譯の嚆矢である。

四六判　伊藤喜朔氏裝幀
實費　金三圓　送料十八錢
上下卷共に御注文の方に限り特に實費五圓で御頒ちす。

アンドレエフ傑作戯曲選集
飢餓王　上卷

原作者の思想と藝術を後世に傳ふべき不朽の記念塔に劇壇空前の大選集

廣汎深遠な想識、深刻精緻な筆致、兩々相待つて全世界の劇文壇を風靡せしアンドレエフ傑作戯曲選集は我が劇壇の新人能澤復六氏が精練無比の譯筆によつて成る露西亞劇文壇の巨匠として、亦表現派の先驅者としての原作者の全面容は本選集によつて完全に現はさる

上卷は思想の深淵にして構想の雄大なる著者代表的象徵戯曲三篇を選出す。『飢餓王』は無產階級と有產階級の爭闘を取扱へる六幕物。『アナテマ』は惡魔が神の世界を亡ぼさんとして生ずる思想の破壞を主題とせる七幕物。『大洋』は七幕よりなる全作品中最規模の壯大なる雄篇

能澤復六譯
四六判　六百餘頁　クロース裝美本
定價三圓五十錢　七百部限り
特價金參圓　料書留二十錢

諸大學政府へ陳情の 補助金問題稍良好

解決までには尙幾多の曲折

私立大學に對する政府の補助金、は第一期に昇格した早、慶、明、法、中、國、日の七大學にのみ付與され他の第二期三期に昇格した他大學は除外視されてゐるので三年前より本學を始め專修、同志社、關西等の諸大學卒先して盛んに交付方を政府當局に運動せしも**財政緊縮方針をモツトとする憲政內閣なりし爲數次失敗に終りしが憲政內閣崩壞して政友系天下を牛耳ると共に**補助金の交付に惠まれざる各大學（九校）代表者は去る六月十二日丸の內東京會館に集合して協議の結果更に大正大學以下、終、日醫、駒、高の第三期昇格大學の加盟をも承諾し翌十三日各大學强硬に團結して政府當局に當り第一班は文部省に集合し粟屋次官、西山專門學務局長、山崎政務次官に面會し更に午後水野文相官邸で文相および安藤參與官に面會し、種々陳情し、更に政友會本部へも出掛て川上元參與官、山本幹事長にも面會した。一方他の一行は大藏省に政務次官山口參與官を訪ひ、暫時面會し終つて三土藏相に官邸にて陳情した。尙同聯合會は**陳情書を貴衆兩院に配布し個人關係その他の緣故を尋ねて側面運動をなし**又中橋商工大臣民政黨の松田源治氏等の聲援を求めた。目下の所經過は非常に良好であるが更に本五日各大學代表者集合して**第二期**の運動に着手し種々申合せをなし**緊褌一番猛烈に政府當局へ奔走をなす**と、本學においては杉浦學長特別に個人關係を有する山本農相、三土藏相を訪れ補助金交付について種々陳情すると。

當局の弁明に 學生も納得

不意打ちの卒業論文

去月十六日の商學部敎授會は卒業論文制度施行の件につき本年度より實施すべき事を決議し直に翌日一般學生にその旨を發表した。それによれば商學部商經兩科生は夏休み前に各自の研究方面を敎務課に屆け出 『**當局**』 より指定せられたる指導敎授につき卒業論文を作製し本年十二月末までに提出せよとの事であるが、昨年度文學部に卒業論文制度の決定せられたる折も發表期のあまりに遲い事、課目單位制度になれた學生に突如强制は不當であるとかなりの非難があつた如く本年度の商學部も同樣の不平があり學部一二年の間にもかなりの强硬なる反對意見もあつた。去る二十二日に至り經濟科三年は緊急クラス會を召集し、『**發表**』 の遲い事。課目制度により卒業論文を製作するには余りに課目單位の多い事。學生にその氣運を起さすべき豫備のなかつた事等を理由として卒業論文制度を本年は撤回すべしと決議し級委員をして學部長を訪はしめたる所、當局の意見は全然學生の豫期した如き形式のものでなく卒業論文制度施行の準備制度の如きものなる事がわかり委員始め學生間に完全なる諒解が出來た。

前監督タ氏來學

前日本聖公會監督タツカー氏は、最近における支那動亂による普敎狀態及び敎育事情視察のため、渡支されるを幸とし、來る九月中旬頃橫濱着商船にて來朝し、本校その他關係方面へ立寄るはずであると。

ロバースの篝火會（校庭で）

前號既報の如く去月拾一日擧行された本學ロバース主催の都下少年團招待の篝火會

近くやる

準備に……（當局の意向）

學部三年の間にかなりの問題を起し委員の決議提出までに至つた卒業論文に關して當局は今回定めて掲示した卒業論文といふのは決して五ケ年の研究を發表せよといふのではなく、學課中の一單位を特に研究したものを論文として提出せよといふので、それはもちろん課目單位の成績となり課目以外のものについて書いたものは學部長の受持課目の成績とする事になつてゐるので、普通一般の卒業論文の準備の樣なものである。追つてほんとうの卒業論文の制度をとる考へではあるが、それには課目單位の減少も考慮せねばならぬし準備を必要とするから突然とは行かない。との意見を發表した。

長野へ

靈性の發達と親睦に傳道旅行する

ＹＭＣＡ

本學基督敎靑年會は夏期休假を利用して、短期キャンプ生活夏期學校傳道旅行等の諸計畫を行ふ由であるが、その第一計畫である短期キャンプ生活は七月十一日より十四日まで、各自の靈性の發達と **親睦** とを計る目的をもつて二俣尾に行ひ、これを終つて、七月十六日より一週間督祥武敎授指導の下に長野縣下の方一次傳道旅行に出發し、輕井澤—小諸—長野—松本—岡谷及び辰野—下諏訪—福島—中津川に至りてこの地に解散。第二次傳道旅行は九月四日より八日まで村尾昇一敎授 **指導** の下に再び名古屋市および岐阜市において行ふ由。尙七月十五日より御殿場東山莊に開かるる日本基督敎靑年會主催の夏期學校には村尾昇一敎授指導の下に岡田、須貝、佐藤の三君出席するとの事である。

男を磨きに 武者修業の旅へ

期待さるゝ本學弁論部の九州行

今秋都下學生雄弁聯盟の當番校を引き受けたる本學弁論部は秋における活躍を目指して全部員緊張して猛練習中であるがその技を一層閃じゆくせるものとすべく例年の如く夏季休暇を利用して地方遊說に旅立つ事に決定した、昨夏北海道に **遊說** して大いにその技を認められ良好なる記錄を殘した同部は各地方の校友より熱心にその遊說を望まれ土地の選定に苦しめられしが九州にある本學校友會支部および同地の各新聞よりの切望辭し難く遂に本年度夏季計畫を九州地方と決定するに至つた。近來都下各校中でもつとも有力なる充實した內容を持ち、自他共に認められて來た同部は本年四月多數の新人部員を得て益その內容を堅くし一方にはち切れるが如き力を持して居るが尙これをもつて足れりとせずあるひは他校の雄弁大會にあるいは討論會に多數の弁士を派遣して一層その向上のために腐心してゐる同部の今夏の九州行は各方面より多大の **期待** をもつて見られてゐる、去る六月十日部員丸山忠富君は先發隊の意味において同地方の狀況調察と後援者諸士との打合せを兼て出發し萬事の臍立を定めて廿三日歸校したがその話によると非常なる期待振で殊に校友支部の各諸士は先輩として又母校を思ふ心から細かき點までも心配してくれてゐるそうであるから從つて同部の責任も大きなわけである出發は七月八日橫濱出帆の郵船會社アキ丸で一路長崎に至り同地を振りだしに佐賀——福島——小倉——大分と遊說して大分より乘船大阪に來りて解散の豫定であるが尙事情が許す限り鹿兒島、久留米にも出向く考へもあると、因に派遣弁士は根岸敎授以下ハイ、藤澤、白井、丸山、力丸、松岡、源原、板谷、の諸氏。

高等教員資格は 十月中に認可か

文部省に對し豫て申請中であつた本學文學部に對する無試驗檢定による高等敎員資格は略認可の事となり、去る六月二十二日杉浦學長はこれが打合せのため、文部省に出頭した。右の結果によればがい認可期は遲くも十月中で、その資格別は英文學科には英語、史學科には國史、東洋史、哲學科には哲學概論、宗敎學科には宗敎學で、これによつて本學における學術的地位は一進步をなす譯である。尙これが實地調査のため近日中に文部省より係員の來學を見るはずであると。

その後本學における內容の充實と共に、

英語部の雄弁大會

マ教授以下七氏審査に 小林・須田兩氏入賞す

去る六月十七日午後三時より本學英語部主催にて懸賞英語雄弁大會が第廿四番敎室において行はれた、一人十分間の弁論にて聽衆の興味を引いた、まづ根岸敎授のあいさつあり豫科生より順次に始め途中五分間休憩し五時半閉會す、ラ總長夫人を始めポール・ラツシユ敎授等の顏も見えた。尙賞與は別室において根岸、マケックニー、コードウエル、ブランステッドの諸敎授および委員等が審査の結果本科の小林、豫科の須田兩君が一等の榮を占めた

自由擁護同盟起ち

全學的に擴大するか

明大當局の斷壓問題

二高問題を筆頭にいわゆる學校騷動が頻發する折柄明治大學では**學生の停學處分、讀書會の解散、學生委員の選擧干涉**などから一騷動が持ち上らんとしてゐる。事件は去月泉哲博士外四名の新進敎授辭職問題の裏面に絡まる學校當局の專斷に對して學生間に不滿の聲が高まつてゐた際また〱去十六日何等の理由も示さずに **讀書會** の解散を命じたのであるに端を發し學生自由擁護同盟および校友會からなる駿台自由協會等が共同戰線をしき學校當局並に現理事に對して聲明書を發しまた一方では校內に演說會を開く等當局の反省を求めるため示威運動を起してゐる學校當局では極力これがちん撫につとめて居るが校友側の出方によつては事件は增々擴大する樣子である

悪童も及ばぬ騒ぎ ブ氏送別記念會

ヤンキー式を地で行つた ソーロング・パーティー

ブランステッド敎授歸國送別記念會は、去る二十七日出發の前日午後七時より、辯論部管樂部主催となり第二十四番講堂にソーロングパーティーと銘打つて開催された。

主賓 で氏を始め杉浦學長その他外人敎授および學生多數出席し、型の如く蜷君開會を宣したが、奇を衒つた學生數名異樣な風態で喧騷し、余興に入て映畫、管げん樂等あつたが、何れも會場大喧騷のため、撤底せず會場全部がきやう音となつて、

有邪 無邪りに九時頃散會した。撤頭撤尾かゝる惡童も及ばぬ一部學生の馬賊振りには學生始め少からず驚いてゐた。

ブ氏出發

廿八日急行で 盛大な見送に

ブランステッド敎授は豫定の如く去る二十八日午後八時四十分東京驛發一二等急行列車で、學生敎授ミツション等關係者多數見送りの中にくわんじとして出發した・

第一回映畫會

盛大なりし

四月以來新進部員四十名を容してスタジオ見學、合評會等を行ひ

鶴見氏就任か

都下大學英語聯盟總裁に

各大學英語部の代表委員は去月二十二日午前十時より麻布三軒町の斯界のキリン兒鶴見祐輔氏を訪問した、同氏は小說の原稿執筆中心よく面會され本學代表委員高見澤君まづ都下大學の英語聯盟の總裁に就任されんことを懇願した、同氏は出來るだけ盡力したいが目下ハワイにおける太平洋會議に出席するため今承諾は出來ないが歸朝後何分返事します。私の諸君に對する希望としては日本の學生諸君が米國の檜舞台に立ちて英語演說することが出來得る樣に一刻も英語聯盟の發展を祈る……と。

松林選手渡米

學生角力團の選に浴し

毎年夏期休暇を利用して日本學生角力選手をアメリカ在住の邦人の招待で角力を各地見學の目的で强剛選手九名を派遣してゐるが本年も第三回の選手を送る爲に種々物色中この程漸くメンバー整ひ本學よりは主將松林忠良君この光榮に浴しかつ本學敎授根岸由太郞氏派遣選手の監督となり來る九日午后三時橫濱解纜のコレア丸にてロス、アンゼルスに向け出發すると

「倒論怪」のビラが廻る 常識でやれとは苦しい話

何でもこいの根岸さんも整理困難で

失敗に終つた討論會

議健萬能をいつてんばりが絶ゆ學內にあつた事のない討論會が去月十五日弁論部の主催で開かれた時から可成りの期待と好奇心が向けられてゐたのであるが、いざやるとなると時間の關係もあつたが參加者僅二十四五名

◇

二十番講堂の敎壇の上に弁士席をつくり、一段高く後方に議長席をつくつて一寸議會氣取り、討論參加者は一樣に傍聽人。議長席についた根岸敎授開會を宣し提出論題『社會惡を救ふは宗敎か、經濟か』（松岡菊五郎君提出）の討議に入る。

◇

出題者松岡君弁士席に登り、『我々は社會惡の多しを認めるこれを救のは宗敎か經濟か、これは私もさ熟考へてだしたのでなく唯ばく然と（ばく然を何回もくり返し）だしたのであるから宜しく討議されたい』と希望する、はい君登壇

◇

直ちに經濟派を自任して至つて不徹底な「人類生活の發展、宗敎の起原、經濟制度變遷」を述べて「結局は現實に立脚した生存權を得る事、卽經濟的根據に依るべき」であると早口に一席弁じた。これぢやてつきり五分間演說會かなアと思つてると、石井君が登壇

◇

この問題を討論するならばまず社會の內容規定なくては駄目であるそうする事によつて我々は社會惡をつかみ得又其の論題にいる事が出來得るのであるといふと、力丸君が聽衆席をけつて登壇し「社會とは人間の共同組合とうんうん…………」とあつさり經濟學論もどきの定義を投げだした。

◇

橋本君登壇「石井君の說に贊成である前提を定めるため、社會の內容を規定せよ」といひ「力丸君の說は社會とは如何なるものかの理想である故に社會の內容はこれで十分である」とはい君駁論し、力丸君もこれに和し一樣に自席から議長席に向つて怒號してる樣に見ゐる。

◇

石井君「社會構成の過程を究明し歷史的論理的考察によつて社會の內容は規定せらるゝ」と說き社會の內容を規定するとの論を調める濱野次や、中途質問が出る松岡君緊急動議として『野次禁止、自席質問禁止、質問者は必ず登壇』と突飛な問題をだし又騷然。

◇

議事が議會式である上に、なんでもこいの根岸議長も社會科學的術語の連發に、そう台指導の手も出かねた態「倒論怪」と書いた變な紙片が飛びだす始末にいよ〱騷然となる。はい君「見ら」と又やり「社會の內容を規定すべきだ」と石井君應しうし一寸停頓。橋本君が社會の內容を規定すると前提し、

◇

社會 變革の過程を展開し、最後にやゝ脫線して『故に社會進化の歷史的必然を究明する事は卽ち社會惡を救ふものはなにかを究明する事である』と斷定した。別に反對意見も贊成もなく、又「論題をそのまゝ討論せよ」とか「三面記事中の心中未遂や代議士收わい等を社會惡として常識的にやれ」と論題提出者の意見を尊重せよ」と論題保護の論喧しく叫ばれる

◇

氣の早い議長は「やゝ兩說に分れた樣ですから決を採りその結果討論を進める」といふ「討論會に決は無用である議長は意見をまとめて說明せよ」といふ者あり議長も自然進行のまゝ放任し、

◇

遂ひに切角の討論會も「社會の內容を規定せよ」に止めをされ、賛否意見の展開も一つとしてなくて時も過て、「婦人參政權付與の可否」（藤澤秀雄君提出）には一つもふれず全部未了のまゝ散會した。

海に山に

……避暑旅行の御用意は三越へ……

品が良くて、値段の廉い、携帶に便利な流行の旅行用具を初め、海水浴用品、登山用具、食料品等を澤山に取揃へましたし

東京 三越

宮田忠太氏 逝去

去る十五日

本學學生監補助にして傍ら豫科に體操を受け持たれて居た宮田忠太氏は過般來肋膜炎にて臥床中の所去る六月十五日突然心臟痲痺を併發し遂に逝去された。

氏は本學院に奉職されること三十三年、常に熱心に職務に盡瘁されてゐたが、去る三月夫人を亡はれた頃より頓に健康を害し、遂に今回計を見たのである。享年四十二才。

因に氏の熱心な努力によつて創設され、部長として氏の指導を受けてゐた弓道部では部員全部弔問した。（寫眞は同氏）

中學便り

中學校の職員室でこの程から有志が申合せて短歌の會を始めた由である。蛙鳴く頃から始めたのと、古今集の序文から思ひ付いて、蛙鳴會と名づけ、毎週月曜日に締切り互選をして、火曜日に發表、**天・地・人**には賞品を付するといふので職員室內に一派の清風が通り、趣味深い話題で賑はい出してきた、第一回からの詠草の入選したものを次に掲げて見やう。

灯

立ちこむる夕霧わけて行く舟のともし火ゆるゝ大川の水。

さみだるゝ堤に立ちて蘆草のともしび戀ふるわれなりしかな。

行々子なきて日暮るゝ川宿の燈一つ落ちて水にゆれゆる。

初夏行樂

武藏野の色よし靑葉よしわがゆく道の大空のはて。

武藏野は黃に燃え立てゝ玄土の瀉る畑路わが一人ゆく。

奧多摩の峽さりくれば足びきの山櫻花畫を散るかも。

螢

さやさやと風のわたれば草かげの螢吹かれて星を流るゝ。

いづこより飛びきにけらし螢一つ鉢の葉末に消えつ光りつ。

女學校便り

新學年より種々の新企畫實施さる。各級を五名づゝより成る家族に分け、一名づゝのリーダーを選び、各級毎に一名の代表者および主任敎師を置き專ら自治精神の涵養に努むとか。

自由研究と稱する課外研究機關を創設し、生徒の學術的趣味の發達を測ることになつた。尙從來の年中行事の春期遠足を廢して各地の見學旅行にあてる事になり、既に今春は四五年生の百穴方面、二三年の千葉鴻台、一年の東村山貯水地方面をもつて實施されたが、見學後開かれる報告會は意義ある結果を見せた。

雜誌部の企行せる雜誌「命」はその好結果より見て、來學期よりは純然たる學友會雜誌として別名にて發刊さるゝ事になつた。雜誌名は目下募集中。

尙、夏期休暇は來る七月十六日より九月十日までなる由。

▽雷嫌ひに雷ぼく滅策でも聞かせたら千べん合唱掌喜雀躍これうたがひなきところ。この背を飲み込んだ日英米の三國が正義人道の下に立つての軍縮會議とやらを開いたがさてその後の形勢何ひにジエネバーくんだりまで首を延ばして見たら、何のこつちやい軍縮會議が勢力均衡會議に早變りとござい。

▽そも〱勢力均衡會議なるものは、兎角日本の樣な小國が兵力優勢であつては戰爭が數學的にゆかない。小國は必ず負けることきまつてこそ合理的である。從つて小國はメツタな戰爭等はやらないだらふから、軍縮の精神である世界平和に合意する譯だ、といふのである。

▽五・五・三なある程三は五より小さいわい。ところで齋藤さんに愚見を申し上たいが、いつそ十と一位にしたら却て永遠の世界平和がくるんぢやないでせふか。弱肉强食而天下治。食ふだけ食へばあとは寢る許りですからなあ。

時間節約!!

今迄は日がな一杯懸かつた仕事も**ライト**に依つて一瀉千里半日で完了

ライトインキ

ライト
9 10 11 12 1 2 3 4 5 6

宮内省御用達 チヤムピオンインキ本舖

篠崎インキ製造株式會社

東京・大阪・長岡

夏の旅は船で 船の旅は近海郵船を御利用下さい

今年の暑中休暇の歸省、遊覽觀樂旅行には是非一度『海の旅』をお選み下さい。凉しい暑を知らぬ旅、樂な、くつろいだ旅、生新と溌溂な男性的な旅、興味と學術に富む旅、經濟的な旅、それは『海の旅』を措いて外にありません。今茲に手頃な旅行地を御參考迄掲げて見ます

□繪の國、詩の郷 小笠原島めぐり

南國的な情緖漲る小笠原諸島、この世の見にくい爭もなく、生活のあへぎもなき平和な島々、椰子の葉蔭に綠風薰る海邊、そこからは哀調を帶びた島乙女の唄がもれて來る、珍果、珍木、すべてが旅行者の心を湧き立たせねば已まないものがあります、短時日の休暇の旅行地として最も手頃であります。

使用船 芝罘丸 二千トン（無線電信、ラヂオ設備）

七月十四日午後二時橫濱出帆 同 廿五日橫濱歸着

八月一日 同上 同 十日 同上

●學生割引往復運賃十九圓二十錢（三等食事附）

□凉味漲る 樺太の旅

帝國北端の寶庫、鑛業に、牧畜業に、製紙に製材業に漁業に視察踏査すべき幾多のものがあります。避暑をかねての見學旅行としては好適のものであります。

使用船 千歲丸 三千トン

每月 三日、八日、十三日、十八日、廿三日、廿八日、 青森出帆（小樽出帆は青森出帆日の翌々日）大泊、眞岡行

この外弘前丸（二千トン）にて每月六回、（五日、十日、十五日、廿日、廿五日、卅日）小樽より樺太西岸及亞港行定期航路あり。以上三船ともいづれも無線電信、ラヂオ設備

靑森—小樽—大泊—眞岡行學生割引、片道運賃 十圓（三等食事付）

□南方の美島 台灣の巡遊

珍奇な動植物、奇異な風俗、産業に植民事業に見るもの聞くもの一驚に値するものばかりです。綠に蔽はれたる全島、暑中の旅として苦しむ程のこともなく視察をかねた遊覽旅行として最適地であります。

使用船 吉野丸 排水 一萬六千トン

信濃丸 同 一萬一千トン

因幡丸 同 一萬一千トン

每月 一日、六日、十一日、十六日、廿一日、廿六日正午神戸出帆（門司出帆翌日）基隆行、最短視察日數門司發より門司着まで九日間、學生割引往復運賃廿八圓八十錢（三等食事附）

○右の外千島方面、北支那方面行の航路も經營してゐます故詳細は左記へ御問合せ下さい。

尙航路案內、海上旅行雜誌『海の旅』御申越次第御送附申上げます。

東京市丸ノ內郵船ビル

近海郵船株式會社

電話丸ノ內（23）自二五二一至二五二九 自二五三一至二五三七

東京船客切符發賣所

郵船ビル一階正面（電話本店に同じ）

橫濱、名古屋、京都、大阪、神戶、門司、長崎、天津、基隆、函館、小樽其他全國各主要港に支店、代理店設置あり。

好評につき十二日迄續映

パ社特作ウオーレス・ビアリー氏主演 彌次喜多野球の巻 說明 大辻司郞

山田耕作 藤間靜枝 洋樂による日本舞踊公演 獨唱 阿部秀子 作奏 日響樂員

パ社特作新進十六スター出演 靑春の嬉び 說明 仙石雷聲 生駒雷遊

十三日よりの特選映畫

パ社特作ダグラス・マツクリン氏主演 出兵水兵 說明 環耕水

更らに錦上花を加へて來演する ブロード・ウエイフオリス 大歌舞團

パ社特作ビーブ・ダニエルス孃主演 勇肌美人女給 說明 仙石雷聲 生駒雷遊

丸ノ內 邦樂座

築地小劇場

小山內薰 作品三種

一日より十七日迄

「三人と三人」三幕

「第一の世界」一幕

「シネマトグラフ」一場

毎夕七時開演

マチネエ 七月中土・日曜

グスタアフ・ホイド作「郭公」一幕

ツヤネツト・マアクス作「秋の火」一幕

バアナアド・シヨウ作「現實を覗く」一幕

毎晝一時開演

タイプライターなら!!

品が良くて修繕無料格安の歐文・邦文・カタカナ各種鬻當（事務室用・携帯用・金六十圓より）（賃貸交換に應じます）

【立大生特待】

輸入販賣 第一商店

神田錦町三ノ十二（一ツ橋商大前）

電話(25)神田二七七八番

カタログ三七送呈

湖

教授　番匠谷英一

私に湖の美しさを敎へてくれたのは久保正夫といふ先輩である。その人は哲學者であり、語學者であると共にすばらしい旅行ずきだつた。少し失敬な言ひ方だが、自分の足跡を印して居ない土地が存在するといふことを恥のやうに思ふ人だつた。

私は、だから湖の岸に立ち、山の頂きに登るごとにこの世に居ない彼の風ぼうを思出す。先輩といつても大して親しい仲でなく時々何かの機會に會つて旅行の話や本の話（といふよりも自慢話）を聞くくらゐが關の山だつたが、でも妙に旅をすると彼を思ひだす。

野尻湖へ遊んだのは一昨々年の夏だつた。上野で汽車を一つ外したため柏原へついたのは夜の八時頃だつた。乘合も出ない。車も見つからないといふ不便さではこりつぽい小一里の道を人に荷物を持たして野尻まで歩いた。でも黑々した山の底に夢の國で出逢つたやうな湖の白さを見出した時はたまらなくうれしかつた。

未明に起き出でて、半ばもやにつゝまれたぐるりの山の影を湖心に見だした心地よさも忘れがたい。宿のボートに乘つて湖岸から五町ほどはなれた島につき、塵一つ浮んで居ない湖の色を見下した時、成程久保氏の言葉も滿更うそでないなと思つた。太陽が山をはなれると湖の美しさ、神祕は半減されてしまふ。廣い割合に平凡でなく、かつ奧床しいところが野尻湖の取柄である。あこで宿の爺さんから、蛇の精が謙信の家來になり、月のいゝ晩に、謙信に謀叛を企てゝ居た重臣と二つの舟にのり共に海底に沈んで忠義をたてるといふ話をきいた。これは芝居になるなと、その時思ひ、その後もいまだにその史實を調べるいとまもなく、勿論紙の上へも書かれて居ない。今年の夏書いてみやうかしらとも思つて居る。（筋は平凡だが話はもつと面白いものだ）本歸りに赤倉溫泉へ回り、妙高山の中腹からはるかに野尻湖の鳥瞰を山の間に見出したうれしさも忘れがたい。あれはたしかに珍らしい景色だ。

中禪寺湖に遊んだのはその前々年の秋だつた。男體山のはだが、落ちつくした黄葉のために枯木色にすみ渡り、比重の關係のために一度沈めば絕對に死骸が浮上らないといふ湖の色は物すごいほどさわきつて居た。死ぬんだつたらこゝにしやうとその時はつきり思つた。船頭にいひつけて湖の中心まで特別にさがし、充分湖の靜寂を味はひつくしてから中宮祠の方へ歸つたのだつたが、ぐるりの山の色の美しさは、さはやかな十一月初旬の山氣と共にいまだに忘れがたい。

去年の夏は朝御殿場から自動車で籠坂を越し、山中湖を見下し、桑畑の中をずいぶん長く走つて晝前に河口湖畔の船津ホテルへ着いた。

そこからまた自動車で精進湖へ出るまでの富士の眺めは素的だつた。丁度朝からの雨が名殘なくはれわたり、群靑色にきつぱりと浮び上つた富士の緑と、色の美しさはいまだに眼の底に殘つて居る。雨を怨んで居たのが却つて千載一遇の好機になつたのだ。旅へ出ると何が幸になるか分りはしない。道にゆき暮れて山中の一軒屋へ泊り、そのために思ひがけない自然のゆうすいに出逢ふことは珍らしいことではない。

靑木ケ原の原始美の精進湖のゆうすいは凡そ筆では現はされない。特は精進ホテルの背後から三十丁ほど上りつめたパノラマの大觀は日本一の景色といつても溢美ではなからう。私はその晩ホテルに泊り、湖にうつた夜の富士にみとれ、更に未明に起きて、パノラマの大觀にみとれた一人だつたが、四湖を左右に見下し、富士を前に見る廣茫方二十里の景色は全く世界的である。あの景色を知らない人は日本の風景を語る資格を有しないものと思はねばならない。

その日の本栖湖の色も素敵だつた。凡そ湖の色は、天候、時刻、季節、特に空の色に非常な影響を受けるものだが、その日の紺ぺきの空は、山奧の湖の幽玄を一層神祕靈妙にして居た。野尻湖などこしてもその比でないと思つた。

歸りは水路をとつて根場といふ貧村からモーターボートにのつて西湖をわたり文化洞をくぐり、今度は和船で河口湖を渡つた。河口湖の富士は多少平凡だが、靜かな美しさは、たしかに賞賛に值ひする。今度日々の投票で富士五湖が一位になつて居たが、あれだけは葉書の多數のせいのみではない。

富士見で二三日休息してその翌日雨の最中を私は木崎湖まで足を伸した。木崎湖もたしかにいゝ。しかし景色の格が二枚も三枚も下なので、五湖めぐりして來た者にはさほど心をひかない。しかし大人しい、永く居てもあかないだらう靜けさには私も可成ひかれた。この湖にも面白い傳說がある。一體に湖に傳說はつきものだ。野人も湖の美しさにみせられて詩人にならずには居られないからだらう。

この夏は出來れば田澤湖と十和田湖へ行つて來たいのだが、仕事が忙しく、金がなく、おまけに身體もあまり元氣でないので、どうなるかね。二律背反もうれしくないが、三律背反は尙更有難くない。（六月十二日）

「イエイツ研究」を讀む

水野清太郎

詩人を理解し能く味讀する者は詩人でなければならぬ。この意味において、最近我が學界に寶玉のごとき明光を放つ大著は、尾島庄太郎氏の「イエイツ研究」であらう。卷頭および卷末の二つの詩は尾島氏の作であつて、イエイツに獻げられてゐるが、この二つの詩によつて觀られる著者は正しく適當なイエイツの理解者である。私は、ここに卷頭の詩を揭げることにしよう。

華ぐばらの刻
情熱にあをざめて旅するものよ
くもなき「記憶」のかめを
人知らぬ月の森の
時移ろはぬ池に埋めよ
かくありて
過ぎし日をおもひ起さば
晝夜の外に華くばらを聽かん

用語の洗れんとしかしてそれに付隨して起る神祕のゐん律！近代詩の象徵的手法は、この詩においてその頂點をきはめてゐると言ひ得やう。

評論家といつても、種々なタイプの人が居つて、人それぞれに特徵がある、森鷗外氏のやうに純粹に客觀的な立場から物事を考察しやうとする人、上田敏氏のやうに詩人的情操を固守して燃さいなる主觀をゐん律的散文にゆだねる人晩年の厨川白村のやうにどちらかといへばトピカルな社會的題材をとらへてそれを激越な文學的態度をもつて論說する人、擧げればきりがないが「イエイツ研究」の著者尾島氏は森鷗外氏と上田敏氏との間をゆく評論家のやうに思はれる。嚴正して一字一句をおろそかにしない論旨と行文、また本書の中にほとんど無數に現はれる原文對照の譯詩の巧妙さ特徵さは、本書のいづれの頁を開くも直ちに感得される。

私は評論家には種々なタイプの人があるといつたが、それは外面的な立場からいつたのであつて、およそ眞に偉大なる評論家のもつべき要素はたつた一つのものであると思ふ、それは何かいはく。パースナル・タツチ、いひかへれば評論家自身の氣はく、情熱である。そして、尾島庄太郎氏はその要素を完全に具備した新進、否！新進といふべくあまりに大成した評論家である。

野口米次郎氏は、特に本書のために二十余枚の長序をよせられ「尾島君の『イエイツ研究』の價値は私のせい言を要しない。また本書は單にイエイツ研究である以外世界共通の眞實の文學精神を私共に導へる」と本書を賞美してをられるが、『イエイツ研究』の著者は、實に鋭くそして深くイエイツの全へうを討究してあますところがない。

內容について一言するならば、『年譜』では、イエイツをめぐるアイルランド新文藝運動の全般が手に取る如く緻密に鳥かんされてゐる。『詩人イエイツ』では、イエイツの抒情的象徵的詩篇のほとんどすべてが詳密に解剖され、イエイツの詩心の發達が著者の豐麗なる詩的散文によつて如實に披れきされてゐる。次に『薄統文人イエイツ』では、アイルランド新文藝運動とイエイツとの交涉がつぶさに敍說されてゐて、言語上より觀たるアイルランド文藝復興、およびこの世界的大文學運動をめぐる諸文人の活躍が五十數頁にわたつてる說してある。故に本書は單なるイエイツの研究としてのみならず、アイルランド文藝の詳細なる現狀を知らうとする人の絕妙の手引ともなるであらう。

著者は『無限』なるものを愛する詩人であり思想家である。詩人としてのイエイツを論するにあたつては、尾島氏は哲學者のそう明と詩人の純情とをもつて、イエイツのポートレートをゑがきだす。そしてそれを描き出だす過程においては尾島氏は完全無欠なる一個の藝術家である。また、イエイツならびにアイルランド文藝運動の委細を敍說するにあたつては、尾島氏は冷靜にして、サイエレテイフイツクなどう察豐かなる解剖家である。（『イエイツ研究』牛込區早稻田鶴卷町四四三泰文社發行、定價金三圓五十錢送料金十六錢。全四三〇頁、四六判總布背革。）

校友隨想

銀行業者の洗禮

―過日の大パニツクに就て―

陶山俊介

人間の社會生活がその者の意識を決定する、とは唯物史觀の說く所だがこの言葉の切實さは學校を出て社會生活をし始めて眞に明らかになつてくる。あの薄暗い立敎大學の食堂でライフスナイダー總長から、しかつめらしい顏で卒業免狀を貰つて、まだ四ケ月位しかならないのに、最早學生々活といふものが遠い儡のかゝつた向ふの世の中のような氣がするようになつた。早いといへば早いものだ。

二三日前、朝日新聞社に居る兄貴と淺野物產に勤めて居る弟と三人で、今秋除幕式を行ふはずになつて居る死んだ父の銅像の模型を下谷の根岸まで見にいつた歸途、省線で池袋驛を通つた時、どやどや乘り込んで來た立敎の學生服姿を見て、三人でつく〴〵學生時代はのんきだつたなあといひ合つた程である。

一九一六年頃、ケレンスキー時代のロシアの事、日毎に貨幣價値が下落して居た時の一挿話として、戰地で何百萬ルーブルかを送れと電報を打つたら、その何百萬ルーブルかの代りに印刷機械を一台送つて來たといふ話がある。先達ての銀行界のパニツクは、正にこの話を思ひださせるような騷ぎだつた。銀行の窓口から預金者の金庫へ、預金者の金庫から郵便局へ、郵便局から日本銀行へ、日本銀行から市中銀行へ、さうして再び市中銀行の窓口から預金者へ、あたかも紙幣の大ランニングが起つたようなものだ。しかもこのランニングで間に合はず、日本銀行の印刷機械の晝夜兼行の動きも尙足らずとして、其の結果は全國銀行の二日間の臨時休業と言ふ事になつた。

當時、僕は橫濱の支店に居たが血迷つた預金者の死物狂ひの顏を窓口からながめ乍ら、紙幣の代りに印刷機械を送つたロシア政府の遣り方の痛快さを想ひ出して思はずくす〳〵笑つたものだつた。

今回の金融界の恐慌がその依つて起つた原因については人々によつて見る所が異るだらう。預金者側より見れば、預金者の信用を裏切つて不良貸付をし、でたらめのバランスシートを發表して世を欺く銀行業者の不德が責むべきであらう。又銀行業者側より見れば、不良銀行も堅實な銀行も玉石混こうに、一齊に取付ける預金者の無智が笑ひたくなるだらう。或は又銀行の投資市場が商業資本より產業資本に移動した結果だと說く者もあるようである。が客觀的に見れば、かくして洗禮を受けて我國の銀行業は次第に進步するものと言はなければならぬ。現に市中銀行の統一とかコール市場の整頓とか言ふ方面は今回の恐慌後、急速に改善されつゝあるようだ。第一と川崎の合併は前者の空氣が如何に濃厚に銀行業者を支配して居るかを示し、コール取引を擔保付に限ると言ふ東京委員銀行の申し合せは後者の一例であらう。

ブハーリンの言ひ草ではないがオムレツを造るには卵をこわさなければならぬ。我利々々亡者の集りの我國の銀行業が歐米のそれのように進步する迄には尙、數回の洗禮を必要とするのだらう。

（陶山俊介氏は昭和二年度本學經濟學部を卒業され目下日本晝夜銀行出納課に勤務中）

はるさめの日

內山潤

春雨そぶる絹色のひる
ソツトまつげを長くして
友ははかなかつた初戀を語りだした。

まびるの喫茶店

明るい溫室ですね
私は紅い小さな花です
まびるのきつ茶店は非常に淸そな感情です
アスパラガスの葉の間から
輕い肉色の靴音がのぞきます
こういふ時には一寸ポツプの頰もいゝですね

倦怠

どなたか
この溫室の中の可愛いい花を
見つけてくれる方はありませんか
ボキーンと指を折ると
カーンとコーヒー茶わんに反響する
まびるの快いあくび

日曜のはる

五月の田圃道を
ガタゴトガタトと
貨物自動が走つて行く
私は詩集をふせて
それがはるかの靑空の中に
溶け込んでしまふまで
をかの上から見下してゐた

蠹魚堂狂筆（拔章）

永松一郎

私の氣のいらだつとき私の心が亂れるとき私の心が感傷に沈むとき私の心が怒に滿ち悲しみに滿ちあまりに喜びにふるへるとき私は靜かに骸骨を見る。眼が二つボコンとへこんで鼻がかけて齒をむきだし頰骨が突でてゐるシヤレコーベ。私の机の上にはいつも骸骨がのつてゐる。

私は骸骨を愛する愛するといふ語に誤弊があるとすれば好むとでもいへばよいだろうか。否々——あのシヤレコーベは私の寥い人生への先導者なのだ。

ボコンとへこんだ眼よかけた鼻よむきだした白い齒並よ飛だした頰骨よ。私は默す彼も默す私と彼は默々と凝視する。その凝視のうちにあのシヤレコーベは私へ人生を物語つてくれるのだ、春の夜、夏殊に秋そして冬、寒風は吹きすさぶ木の葉はちる。おぼろ月夜がねしづまれる眞夏の深夜。語りあつてごらんなさい。なんといふ偉大な哲學者であらう豫言者であらう。そして又恐ろしきまでに神祕論者であることか。その神祕その莊嚴、その崇高は忘我の境でありちまたである。默せよ考へよ、凝視せよ透徹せよ「星は宇宙のびやうなり」ハイネはいふ。果して詩人のたわごととけなし去るべきであろうか。

人は私に對して私がさびしいといふさびしそうだといふ——果して然るか然らばそのさびしいといふその根據は一體何處にあるのだ私は考へたい。さびしいといふ—その言葉の意味は非常に複雜である。いはゆるメランコリイ的なものセンチメンタル的なものこれ等さへもさびしいといふ定義のうちに抱括されてゐるからである。

然らば果してさびしいといふことの私のいふさびしいとは如何なるものであるか。私は二樣の解釋と立場を與へてゐる。卽ち形而上的のさびしさ、形而下的のさびしさ。これである。形而下的なのはいまいはない。それならば形而上的なさびしさとはなんであるか。この形而上的のさびしさこそ私のいふさびしさであり私の人生觀そのものである。私のへ理くつにすぎないかもしれない、だが私だけは信じる。肯定してゐるのだ。

一茶を考へて見たい。一茶を考へることその對稱としてあの芭蕉を思だす。そしてそこに比較と弁別と認識的差異とが生れる。一茶も芭蕉も旅から旅へ自然の懷に抱かれその自然を口吟んだ。だがこの二人は果して同一の態度であつたろうか「奧の細道」を通じての芭蕉と「株番」「五番日記」「七番日記」をとほしての一茶となんといふそこに人生觀に、生活態度に差異があることか。私のさびしいといふ——形而上的なさびしさはこの二人には共通はするしかし全部的に惜しげもなく許さるべきか、私はさう思はない。人生觀の違ふ所確に人格的にも違ふ彼等である。

私は思ふ。芭蕉にはさびしいといふそのうちにその一部分である、「さび」といふ分子が多分であつた。私はそれをいはない。一茶のあのしひたげられしひたげられ、そのしひたげの間にわいた救はれないといふ境遇に救はれたといふあの心境である。そしてその救はれないといふうちに救はれたその人生觀がかゝる句をばつくらしめたそのことである。卽ち

美しや障子の穴の天の川

これだ。この心境こそ私がいふ形而上的なさびしさであらねばならないと思ふのだ。やみほうけた姿を思ひだすではないか。年を老つてゐる。きたない布團である。汚れた疊である。むさくるしい家——藏である。障子である。破れてゐるそのいはゆるみすぼらしい悲慘な周圍にすべての現實的苦惱をかみしめ、かみしめかみぬいて微笑む彼である。その微笑こそ血に彩られた人生の苦痛のうちに鍛へ上げられたものである、この微笑のうちに泣き。この淚。この淚のうちに微笑める彼の境地である。そして破れ障子の穴からかのさんらんたる天の川の美に醉ふ——。

そこに哲學ありそこに宗教ありそこに詩境がある。哲學といふも宗教といふも詩境といふもその極地こそこん然たるこの一切融合のうちにあるのではあるまいか。

いはゆる宗教的宗教と哲學的宗教の相似にて非にして、非にして相似たるも質を同じくするといへども形を異にするが故ではあるまいか。

ことまれ私はこのいはゆる私の形而上のさびしさを感ずるに至つたのも一茶のそれに共鳴するに至つたのもたとへ質的でなかつたにせよ少くとも靈的にうけた私の境遇的變化にあつた。現實的な苦痛のしもとにこらへこらへ遂に思だした境地——一茶のそれの如き境地を私の寥い人生への先導者たる骸骨の上に見だした。狂的といはれるかもしれないが私はこの骸骨を抱くことによつて何物かを會得する、いはゆる私の形而上的のさびしさたる所以である。

齒をくしばつても微笑め
冷たさにふるへても笑へ
私の生活態度である。

見給へ墓場の高張ちやうちんの影はゆらめくではないか。

一九二七、六

「A」から

松本幸夫

A・薄暗いプラツトフオームで僕は鼻血をすゝりながら「てんかん病院の日記」を讀んでゐる。・と、無遠慮に僕の身體にすりついて、べたんと座つた男があつた。その向ふに、乳の肥つた女が島田と丸まげを並べた。

「妾、お腹が減つたわ……貴方どう？……。」

島田は厚化粧をしてゐる。

「へらない。」

「あたし、朝、おかゆをすゝつただけなのよ、たべる暇なんかありやしない……」

丸まげも腹が空いてゐるんだ！「あつちへゆきや、暇があるよ。これから、うんと氷を食ふんだね。」

男と島田の間に布ろ敷つゝみが二ツ重ねてある。このやせた田舍から省線電車は彼等を街のカフエーに連れて行くのだ。

明りが薄い……線路が靑くすき透る。

「〇月〇日　終日、何もすることがない。額が堅い鐵の帶でしめつけられてゐるやうだ……

私の脊中には細い糸のやうなものがついて、私をあちらこちらと引張りまはす。動くたびに手風琴のやうな音樂が聞ゐる、それが奴何にも煩はしい。どんな強い人でも私の樣な體に實際なつて見たら恐しくつてすぐと死んで了ふだらう……であるのに人は私の事をわらふ。醫者は私の苦しみを信じやうとはしない……」

てんかん病院の狂者が文字の上で身もだへする。

その時である。熱い火氣をあふつて、黑色の貨物列車が、堅い木のベンチをゆり動して走つた。それが無限に續く……

◇

a・ある夜、終電車を降りた。改札口に二つの赤切符が、驛員につまみだされてあつた。

それは多分、電車の中で、ふざけ、叫び、怒つてゐた姉弟の小乞食の手に握られてゐたものに違ひなかつた。

◇

b・世界の終末において、人々はみんな狂者になつてゐる。（もちろん、彼等はそれを意識しないであらう）

◇

さて、新感覺派は文學上の半狂者（マトイド）である。（二、六、二八）

ベーブ・ルース署名のボール

日本のフアンへ十二個を贈呈

野球界のホームラン打者巨星ベーブ・ルース氏は最近フアーストナショナル社の「本壘打王」に主演してゐるが、同社は今回紀念のため數百個のボールに氏の署名を求め、その中十二個を日本支社に分與し、我國映畫野球兩フアンに贈呈する由である。詳細は追て發表せられるがこの映畫は九月上旬封切の豫定であると。

◇プロタリヤ藝術（七月號）「文藝戰線」および「文化批判」に對抗し、人類解放の使命に生れたマルクス主義的大衆的機關紙である「運動の混亂か頭腦の混亂か」廣地亙「讒言の自由」中野重治「沒落者をして沒落せしめよ」谷一「敗戰主義」武田麟太郎「鄕里—春—」野口弘「海濱の家」久枝榮二郎その他（定價三〇小石川小日向台町マルクス書房）

◇木星（七月夏期創作號）「河中の岩」坪田讓治「砂糖の花」小出正吾「朝」日高浩「車中挿話」渡邊正知「內海勘三郎先生」福田久道（定價二〇市外高田町旭出九六その社）

◇我觀（七月號）「支那、干涉か、不干涉か」「諸產業の現狀及將來」「民政黨批判」「政黨首領の思想及び人物」以上の諸論題の斯界各名士の論說その他（定價五〇麴町內幸町鳥ビルデング內その社）

◇經濟往來（七月號）ゴム產業の世界的難走」堺利彥「北岬行」牧野英一「藝術の階級性に關する斷片」大森義太郎その他（定價二五本鄕弓町一ノ二五日本評論社）

◇第二早高學友會雜誌　評論に創作に詩歌に相當の充實振りを見せてゐる。評論五篇說苑五篇創作三篇その他、（牛込早稻田第二早稻田高等學院發行、非賣品）

◇塔（二十號）立敎大學の文藝雜誌である。（池袋立敎大學文藝部發行、二十錢）

◇柔道（第一號）立敎大學柔道部の機關紙、論說あり詩歌あり中々賑やかである。（池袋立大柔道部發行）

◇文藝創造（七月號）劇と人間の改題されたものである。（小石川關籠町新月社發行、十五錢）

◇世界と我等（七月號）（芝公園六號國際聯盟協會發行、十錢）

◇海の旅（近海郵船株株會社）

◇學苑（七月號）（府下井荻町上井草一三八〇、其社）

高級ノート　イーグル印

Trade mark "EAGLE" Note Book is the best obtainable in Japan. always the finest in quality, Look for this mark when you need them.

（イーグルの商標に御注意下さい）

玉の響きを打つ毎に
涼しさが增して行く
樂園
立大兵器庫裏

穿き心地と堅牢を
モツトーとせる當店の靴
井村靴店
立大構內出張所

登山期將に來る！
登山用として最も自信ある弊店の製品を御進め致します
飯盒壹圓拾錢
五個以上壹圓但本紙持參者に限
携帶天幕、水筒、飯盒、毛布、外套、
編上靴、登山服、乘馬ズボン
參謀本部陸地測量地圖大販賣
陸軍拂下被服御
長島彥支店
御　部
麴町九段坂下電停前
電話九段(33)二二六六
振替東京六二七七五
麴町飯田町二ノ六六

親切第一
夏服の御用命には
特に迅速に御仕立致します
必ず御氣に召す服地を
澤山備へて御坐います
中野屋洋服店
立大構內出張店

定評は既に！
小林の洋服に
夏休を前に御用命をお待ち致して居ります
小林洋服店構內出張所

新古書籍豐富
不用品高價買入
立大生の爲
特に大勉强
大洋堂書店
立大正門通り

暑いお疲れは
飲料洋果に限る
ユリヤ喫茶店
皆樣の夏期のパラダイスは弊店で
豐島師範橫通り

御贈答には……
松屋の商品券
共通
銀座　松屋
今川橋　家庭部
大森　賣店
橫濱　鶴屋

國產の精華
ライオン齒磨（はみがき）
世界的優秀
煉製チューブ入